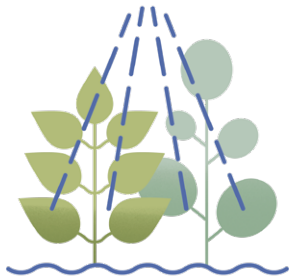




GARDENING MANUAL

ガーデニングマニュアル



水やりの方法



お手入れ道具



お庭・鉢への植え方



施肥の基礎知識



病虫害の対策

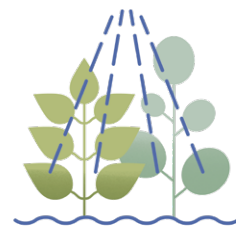


剪定の基礎知識

How To Watering

水やりの方法

コツが必要！正しい水やりのこと



植えてすぐの水やり

植えてから1年目の水管理は特に重要！適切な水やりでお庭の緑をしっかり根付かせましょう。

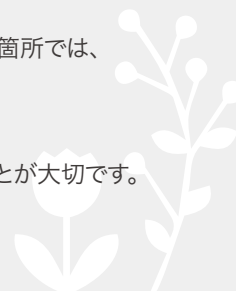
樹木(高・中木)

ジョウロやハンドノズルで根元に向けて充分水が浸透するように水やりをします。葉は、特に汚れ等が見当たらなければ水をさっとかけてあげる程度で充分です。



低木・草花・地被植物

たくさんの植物が密生している箇所では、根元まで水が届かないことがあるので注意しましょう。根元までしっかり水をかけることが大切です。



水やりのタイミング

3

4

5

6

7

8

9

10

11

12

1

2月

春

Spring

3~4日置きに一度

どの時間帯でもOK!

夏

Summer

1日~2日に一度

夏の暑い日中の水やりは避ける!
朝か夕方に行います

秋

Autumn

5~7日置きに一度

どの時間帯でもOK!

冬

Winter

10日置きに一度

朝晩は避ける!
比較的気温の高い日中に行います

※上記はあくまでも参考です。木や草花の周りの土(表面)が白っぽく乾燥してきたら水やりのサイン! 周りの土が十分に湿っていたら、その日の水やりは控えます。日頃から一日一回、土の状態を確認する習慣をつけましょう

これがあると便利!

鉢には

ハス口つきジョウロ

広い範囲にまんべんなく水をまくことが出来るので便利!



庭には

散水用ハンドノズル

手元で水圧や範囲の調整と水の出し止めができる!



Care Tools

お手入れ道具

これだけは揃えておきたいあれこれ



移植ゴテ (園芸用シャベル)



草花の苗の植え付けや、植え替えの他に簡単な土の掘り起こしなどに使用します。幅広・細身の物が両方あると、使い分けられるので便利です。

根起こし



根張りが深くしっかりした雑草を取り除くときに使います。

ハンドレーキ (園芸用熊手)



根張りが弱く、広い範囲に広がるタイプの雑草を掻き取ります。

ジョウロ



水やりや液体肥料を撒くときに使います。お庭用には取り外し式のハス口の付いた軽くて丈夫なプラ製のものがおすすめです。

ホースリール・ハンドノズル



広い範囲によく水やり作業ができます。ハンドノズルは水の集中・拡散を調整できるので使いやすく便利です。

霧吹き (噴霧器)



植物の乾燥対策や、薬剤散布に使用します。きめ細かい霧が出るものがおすすめです。

木バサミ



草花の切り採りや、細い枝の剪定、枯れた葉の除去などに使います。

剪定バサミ



力が入るので、木バサミでは切れない太さの小枝を切るのに適しています。

刈り込みバサミ



比較的葉の密度が高い生垣や、庭木の刈り込みをする時に使用します。芝生の端部の刈り込みにも使えます。

剪定ノコギリ



剪定バサミでは切れない太い枝を落とす時に使用します。刃の長さが25cmくらいのもので使いやすいのでおすすめ！

高枝切り



高いところの枝を切り落とすときに使用します。長く伸ばすタイプは先端が重くなるので注意が必要です。

How to planting

植え方の手順

お気に入りの草花を植えてみよう！



植える前の準備

- 1 植物の根元に近い部分の茎を持ち、鉢から根鉢を取り出す

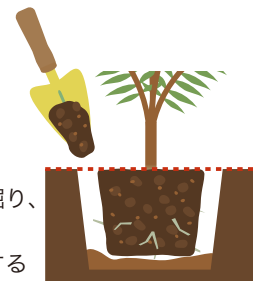


- 2 ポットから苗を抜き取り、根を痛めない程度にほぐす。



地植えの場合

- 3 根鉢の大きさより少し大きめの穴を掘り、根をほぐした植物を上置き、高さを見ながら苗下の土の量を調整する



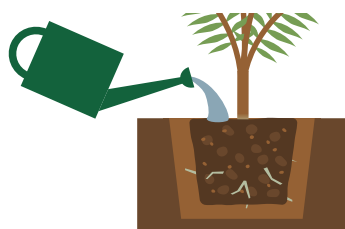
- 4 根を傷つけないように、土を入れながら棒などで押し込み、周りの隙間を埋めていく。最後は根元を軽く押さえながら周りの土と高さを揃える。支柱を立てるときは根よりも深めに刺す



- 5 支柱を立てた場合は、麻紐などで根元から上の方まで等間隔に結んで固定する



- 6 隙間に土を流し込むために、蓮口の付いたジョウロでたっぷり水をあげる

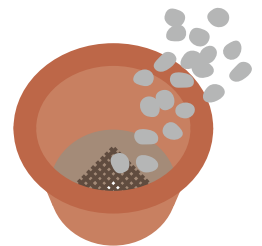


支柱は必要？

途中から曲がっている庭木や不安定で倒れそうな木、大きく育てたい木などには支柱をしてあげることがオススメ。支柱があることで土の中で根が動くのを防ぎ、根付きが良くなるので、植物を丈夫に育てることができます。

鉢植えの場合

- 3 新しいPOTの鉢底にネットを敷き、その上に軽石をうすく敷きつめる。量の目安は鉢の1/5ほど



- 4 軽石が見えなくなるくらい土を入れて、根をほぐした植物を上置き、高さを見ながら苗下の土の量を調整する



- 5 根を傷つけないように土を入れながら棒などで押し込み、周りの隙間を埋めていく。鉢のふちから2~3cm下まで土を入れるのがベスト！



- 6 ジョウロで鉢の底から水が流れ出すまでたっぷり水をあげる。水の勢いが強いと土が流れ出てしまうので注意！



Fertilization Basics

施肥の基礎知識

植物に適した時期や量を覚えよう！



肥料をあげるタイミングは？

寒肥 (1~2月)

植物の基礎体力を維持するために冬の間ゆっくり土の中で分解する肥料を与え、春~夏にかけて根に吸収させる肥料のこと。植物を植えた時に行うことを元肥(もとこえ)と言い、寒肥用に市販されている肥料を用法・用量にしたがって撒いてください。

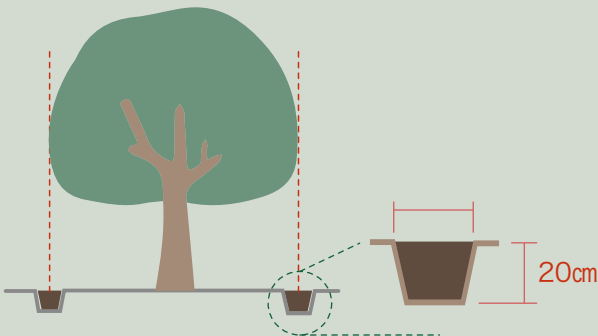
追肥 (3月・6月)

樹木の活力維持のために年2回程与えます。市販されている追肥用の肥料を使います。

お礼肥 (花や実の落ちた時期)

花や実が落ちた木の活力補充のために施します。追肥用の肥料と同じものでOKです。

高・中木は、葉の先端の下部が施肥のポイントになります。幹を中心に円状の溝を掘って土と混ぜた肥料を埋め戻すか、その部分の表土とよく混ぜて馴染ませます。低木や植込みは根元周囲の土と馴染ませます。



高・中木は、葉の先端の下部あたり(撒けないときは幹の周り)にばら撒きます。低木や植込みは根元周囲にばら撒きます。追肥用の(使いやすい)粒状肥料を用法・用量に従って撒いてください。



肥料についての注意点

肥料は、あげる量が多いほど植物が元気に育つというわけではありません。
一度に多く与えすぎると植物に悪影響を与える場合があるので、指示量を大幅に超えないよう注意！

植物は肥料を固形のまま摂取できません。肥料の栄養成分が水に溶け出し、根がそれを吸収することで初めて体内に栄養を取り込むことができます。このため、肥料をあげた後には必ず水やりをしましょう。
このとき、水圧を強くしすぎると肥料によっては飛び散ってしまうので注意が必要です。
その後の水やりは、土の乾燥状態に応じて行ういつもの水やりや、雨が降る場合は必要ありません。

Disease/Insect Control



病虫害の対策

よく観察！大切なお庭を守るために

害虫・病気のタイプはどれ？

病虫害対策には症状の早期発見が大切！日頃からお庭の植物を観察して、適切な処置を行いましょよう。

A type

- ・木に虫の幼虫(毛虫、アオムシ等)がいる
- ・葉の裏表に2~3ミリの虫(アブラムシ)がいる
- ・葉の裏に1~2ミリの白い虫(コナジラミ)がいる
- ・葉が巻かれたり縮れたりしている(ハマキムシ等)
- ・葉が真っ黒くススを被ったようになる(スス病)

駆除適用のある
殺虫剤を散布する

B type

- ・幹や枝に白い貝殻状やロウで覆われたような物が付いている(カイガラムシ)
- ・虫が葉を食べた痕がある(ヨトウムシ、てんとう虫、コガネムシ)
- ・幹や枝に異物が付いている

駆除適用のある殺虫剤を散布
+
虫と葉の異物を取り除く

C type

- ・ミノムシ、カミキリムシ、センチュウ類、イガラ、ナメクジなどの不快な害虫がっている
- ・葉が白っぽくなり、葉の裏に小さな赤い虫(ハダニ)がいる

特定害虫用の
専用殺虫剤を散布する

D type

- ・葉に黒や白の斑点や変色、白い粉を撒いたような現象(病変)がみられる
- ・葉や茎に不自然な模様やカビが発生している現象(病変)がみられる

すぐに変病部の切除
+
変病に合わせた殺虫剤を散布

！ 薬剤の散布方法と注意点

- ！ 病虫害が小規模で対処し易い状況ならば、症状に適したエアゾール式やスプレーボトル式の薬剤を散布します。広範囲に発生している場合は希釈用薬剤を薬剤散布用の分切り噴霧器で散布します。
- ！ マスク、耐水性手袋を着用して、薬液の吸引や肌への付着に注意しましょう。作業後は肌に付いた薬剤や手を石鹸でよく洗いましょう。
- ！ 使用説明書の薬剤希釈倍数を守り、作った薬液は残さず使い切りましょう。
- ！ 人が近くにいるときは散布を控え、池やペット、車等にかからない様に注意しましょう。



Pruning Basics

剪定の基礎知識

刈り込みで美しく元気に育てよう！



大木類

幹・枝・葉のある、いわゆる「木」の見た目をしている植物

剪定が必要な枝

幹や太い枝から不自然な方向に伸びた枝

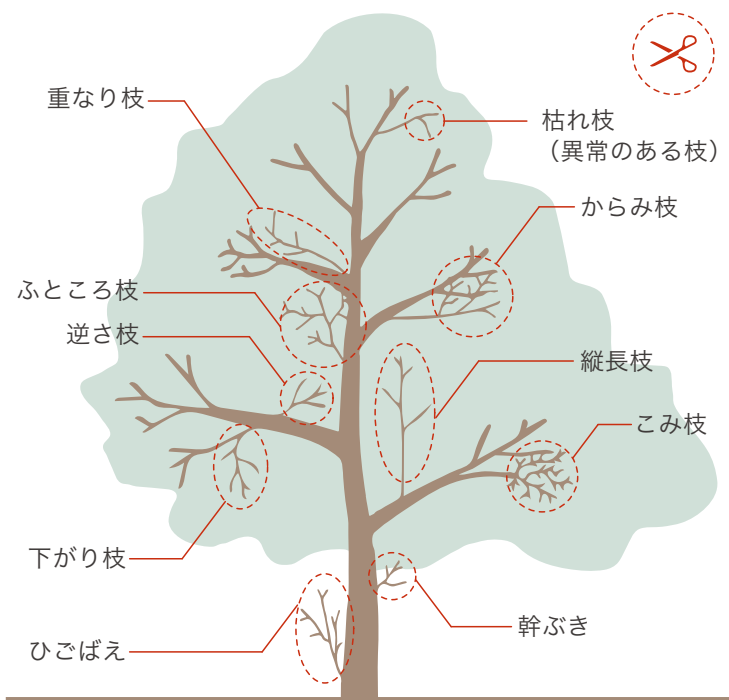
- ・ひこばえ(やこ)
- ・幹ぶき(胴ぶき)
- ・徒長枝(とび枝)
- ・下がり枝(垂れ枝)
- ・逆さ枝
- ・ふところ枝

病気や害虫の影響を受け衰弱又は枯れた枝

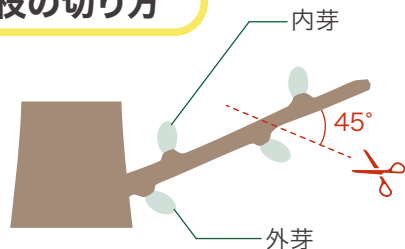
- ・枯れ枝
- ・病変等異常枝

美観を損ね樹形を乱す枝

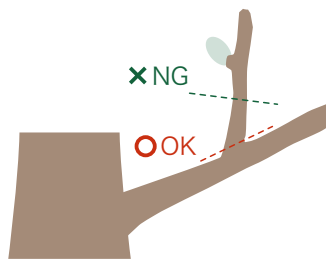
- ・からみ枝
- ・重なり枝



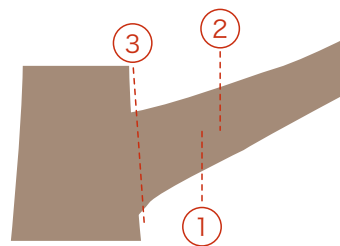
枝の切り方



外芽の先5ミリ程を枝に対して約45度の角度で切ります。



不要な枝は枝の途中で切らず必ず生え際を狙って切ります。



太い枝の剪定は剪定ノコギリで図の順番で切るようにします。

剪定のタイミング

花の咲く木

花が咲き終わった頃を見てなるべく早めに剪定します。

夏前に開花する木は

翌年の花芽が出る場合もあるので、夏過ぎの剪定は軽めにします。

常緑樹

梅雨明け頃、伸びすぎた枝の剪定や生垣などの刈り込みで

樹形を整えます。

成長を抑えたいときには、10月頃にも剪定します。

落葉樹

冬の休眠中(12~2月)が基本的な樹形を作る剪定にもっとも適した時期です。

夏場の剪定は軽めに樹形を整える程度に行います。

Pruning Basics

剪定の基礎知識

刈り込みで美しく元気に育てよう！



草本類

茎・葉で構成される、いわゆる「草」の見た目をしている植物

まずは植物がどちらのタイプか知っておこう

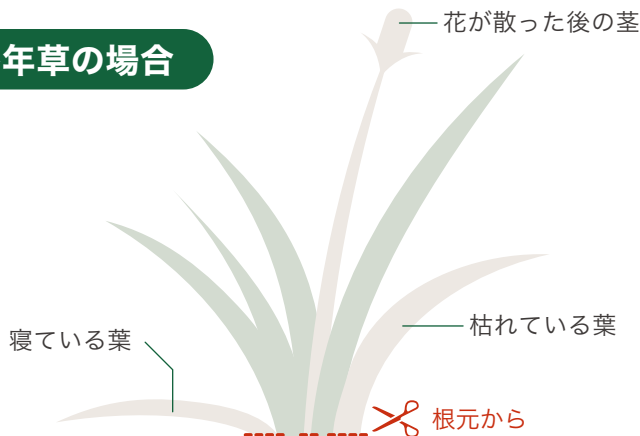
多年草

一年中枯れることなく
常に葉が茂っているタイプの植物

宿根草

冬や乾燥期などの時期に、
地上部が茶色く枯れるタイプの植物

多年草の場合



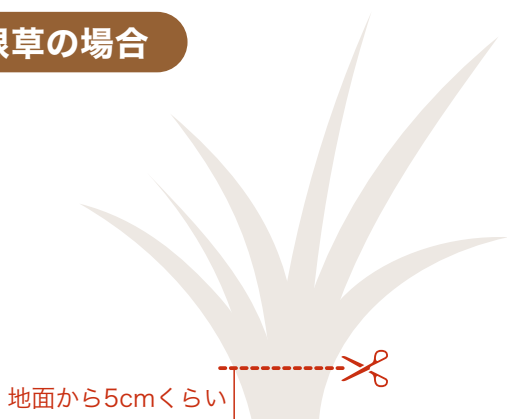
剪定が必要な葉

- ・枯れている葉
- ・地に寝てしまっている葉
- ・花が散った後の茎

Point!

基本は葉の根元から切る

宿根草の場合



剪定が必要な葉

- ・12～2月頃、地上に出ているすべての葉

Point!

地面から5cm程のところを切る